

お薬のしおり



No.203 (H31.2)

東京医科大学病院 薬剤部

花粉症とお薬について

だんだんと暖かくなり春も近づいてきた今日この頃。花粉症の方にとっては辛い季節の到来かと思えます。現在、日本気象協会から春の花粉飛散予測が出されていますが、本格的な花粉の飛散時期に備えるためにも、今回は花粉症についてお話したいと思います。

○花粉症とは？

花粉症とは、植物の花粉が原因となって起こるアレルギーの総称です。空气中を飛散している花粉が鼻や眼の粘膜に付着することで、くしゃみや鼻水、眼のかゆみ、鼻づまりなどのアレルギー症状を起こします。また、のどや皮膚の症状を伴うこともあります。花粉症として、スギ花粉によるものがよく知られていますが、原因となる植物はこのほかにもさまざまあります。下記に主な花粉の飛散時期を示しました。

《主な花粉の飛散時期》

(引用：全日本病院協会)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スギ												
ヒノキ												
イネ科												
ハンノキ												
シラカンバ												
ブタクサ												
ヨモギ												
カナムグラ												

花粉は植物の種類によって飛散時期が異なりますので、地域により多少前後はありますが、自分がどんな季節に症状が出るかで、原因となる花粉を推定することができます。また最近では、専門の医療機関で原因となっている花粉を特定する検査を受けることが可能です。

花粉症を起こしている原因植物や症状は人によって異なりますので、「花粉症かな？」と感じたら、まず、近くの医療機関を受診するようにしましょう。



○花粉症の治療薬は？

花粉症の治療には、内服薬や点鼻薬等を使った「対症療法」と完全に治すための「根治療法」とがあります。主に次のような薬が使われます。

《対症療法》

①抗ヒスタミン薬：ヒスタミンというアレルギー反応を起こす化学物質の働きを抑え、くしゃみや鼻水といった症状を抑えてくれる薬です。既に出てしまっているアレルギー症状を緩和する目的で多く使用されます。内服薬だけでなく、点鼻薬や点眼薬なども使用されます。種類によっては眠気があるのであるため、車の運転時などは注意が必要です。

②抗ロイコトリエン薬：ロイコトリエンというアレルギー反応を起こす化学物質の働きを抑え、特に鼻づまりが強いときに使われる薬です。

③ケミカルメディエーター遊離抑制薬：花粉が体内に入った時に肥満細胞からアレルギー症状を引き起こす体内物質(ヒスタミンやロイコトリエンなど)が出るのを抑える薬です。

④ステロイドホルモン剤：点鼻薬は、鼻粘膜局所に直接噴霧し、少量でこの炎症を引き起こす細胞に作用して、抗炎症作用を示します。くしゃみや鼻水などの鼻の症状が強いときに使われます。投与部位のみ効果が発現するため、全身の副作用は少なく済みます。また、眼の症状がひどい時にはステロイドの点眼薬を使うことがあります。

⑤血管収縮薬：主にアレルギー性鼻炎の治療の際に鼻に噴霧する点鼻薬として使用されます。粘膜の血管を収縮させて粘膜の腫れを取り除くことで、鼻づまりを改善する効果があります。

《根治療法》

①アレルギー免疫療法薬：花粉症の原因となっている物質を少ない量から取り入れ、体をアレルギーに慣らし、アレルギー症状を和らげる治療法に用いる薬です。主に、アレルギーを含む治療薬を皮下に注射する「皮下免疫療法薬」が使用されていましたが、近年ではスギ花粉症を対象とした、舌下に投与する「舌下免疫療法薬」もあります。ただし、治療前に、症状がアレルギーによるものかの確定診断が必要です。また、スギ花粉が飛散している時期は、新たに舌下免疫療法薬での治療を開始することはできません。

～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～

